

第1回 南関版コンパクトシティ構想策定委員会  
議事録

---

---

- 日時：令和3年10月22日（金）15：00～17：00
  - 場所：南関町役場 2F 議員控室
  - 参加者：（敬称略）
    - 【委員】末竹、上田、北原、立山、中村、猿渡、山下、西田
    - 【委員長】西郷
    - 【事務局】大木副町長、坂田、橋本、大森、西山（まちづくり課）
    - 【事務局支援】ランドブレイン：山田、工藤、吉山〔記〕
  - 内容：
    1. 開会
    2. 委員長の変更について
    3. 委員長挨拶
    4. 委員紹介
    5. 議事
      - ① 経過報告
      - ② 策定スケジュールについて
      - ③ 住民参加について
    6. 閉会
- 
- 

（以下議事録、敬称略）

## 1. 開会

## 2. 委員長の変更について

本委員会設置要綱に基づき、副委員長が委員長職を代理することとなった。

## 3. 委員長挨拶

## 4. 委員紹介

## 5. 議事

### ① 経過報告

- ・（委員長）これまでの委員会での検討内容は委託事業者に伝わっているのであれば、明確に示していただきたい。
  - －（事務局）アンケートを含め諸資料は共有している。
  - －（コンサル）住民アンケート結果や議事録等の資料を受領した。詳細は資料4の際に説明するが、現在とりまとめ作業を進めているところである。今年度はこれまでの議論を含めてとりまとめていくようにする。
- ・（委員長）構想案の策定主体がこの委員会であることは認識していなかった。
  - －（事務局）本委員会設置要綱にあるように、たたき台について意見を出し、策定する

- という役割となっている。
- (委員長) 責任のある立場であることを委員一同認識していきたい。
- ・ (委員) 第2校區で児童数が激減し、複式学級の可能性もあると聞く。統廃合の可能性を懸念しているが、それは踏まえず、小学校区ごとの構想案として検討を進めてよいか。
    - (事務局) 地域未来構想は校區ごとの課題や魅力を洗い出し、現状の地域をより良くする方法を考えるものである。取組みを進めれば減少の緩和もなくはないと思うと、現状の校區のまま検討を進めるのがよいと考えている。
  - ・ (委員) 南関町行政改革大綱には、構想案をもとにした取組み案がすでに記載されている。本委員会では協議すべきポイントは何か。
    - (事務局) うから館を生涯学習施設として活用するといった町の方針は示しているが、具体的な住民利用のあり方など決まっていないところも多い。生涯学習施設としてのコンテンツを膨らませるような議論をいただきたい。また、大綱のアクションプログラムにある具体内容は毎年変更していくものであるため、本委員会での議論対象ではない、ということではない。
    - (委員) 日付がないため、誤解を生みかねない。
    - (事務局) 大枠として生涯学習施設という明確な位置づけは決定である。中身の議論は本委員会でも議論すべきであると考えている。
  - ・ (委員) うから館だけでなく、生涯学習機能は庁舎に持たせることもできるのではないかと。また、生涯学習施設と決まっているのであれば、意見には制約が出てくると思う。
    - (事務局) 庁舎は5,000 m<sup>2</sup>以上あるが、空きスペースは少ないので、生涯学習機能の併設は難しいと思う。
  - ・ (委員) 今後20〜30年に向けた議論をするのに、委員の年齢・性別のバランスとれていないように思う。ワークショップはその場限りの意見提示になってしまう。ワークショップや委員会に出られる人は限られているが、意見を出しやすく反映しやすい仕組みをつくっていく必要がある。
    - (委員長) 本委員会では、住民ワークショップの声をきちんと拾い上げていく必要がある。あくまで構想なので、別の計画等で書かれていることは気にせず議論していきたい。仮に生涯学習施設に異論があってもよい、という認識で議論を進めたい。

## ② 策定スケジュールについて

- ・ (委員) アンケート結果を教えてもらいたい。
  - (事務局) 町内企業社員と役場職員に依頼し、290件が返ってきている。企業社員は184件、役場職員は106件である。おおまかな数字は出ているが、詳細の分析結果は追って報告する。
- ・ (委員) 年齢別や性別などの意見を整理することはできるのか。
  - (事務局) 属性ごとのクロス集計を行う。町外在住者は約6割となっている。
- ・ (委員) 地域で暮らす障がい者などの声はどうやって拾い上げていくのか。
  - (事務局) 直接声を拾うのは難しいと思うので、原課などへのヒアリングで把握していきたい。校區別の声をとりまとめる際には、個別計画との整合もとっていく。
- ・ (委員長) 本委員会の議論テーマについて説明いただきたい。
  - (事務局) スケジュールに記載している通りである。うから館については、モデル地区として2月に議論をいただく予定である。
- ・ (委員) 周辺地域との比較が重要だと思う。カルテも校區ごとだけではなく、他地域との比較や関連性を数字として把握してもらいたい。類似団体との比較も有用かもしれない。

- (事務局) 数字で把握できる部分は集約し、特徴的なことがいえるか分析を試みる。
- ・ (委員) 第2校区は土地を売りたいという人が多いらしく、新しい宅地が少ないという話があった。ワークショップには校區別の特徴などの意見も、あれば集約してほしい。ほかにも、学校の職員室に入りやすい・入りにくい校区があると聞く。聞き方は工夫してもらいたい。
- ・ 地図にプロットされている「医療施設」は、内科などの分類ができるのか。町外とも比較できるとよい。
  - (事務局) ワークショップの意見として出れば集約しておく。校区ごとの特徴を語れるようであれば、参加者に投げかけてもいいかもしれない。医療に関する比較軸は検討しておく。
- ・ (委員) 高齢者の独居率、電波のつながりやすさもわかればよい。また、4校区の比較表作ってもらいたい。
  - (事務局) テレビの難視聴地域は町でも把握できるが、電波はわからない。独居率は社協が把握しているため、情報提供依頼をかける。
  - (委員) 子ども関係の数値もいただきたい。
- ・ (委員) 不動産HPを見ると、町の住みよさランキングがある。住宅探しをしている人には貴重な情報だと思う。民間のランキングの軸なども参考にしてほしい。
  - (事務局) 非公開データも多いと思うので、使えるようであれば。

### ③ 住民参加について

- ・ (委員) 現地開催か。家庭によってはオンラインの方が入りやすい人もいると思う。
  - (事務局) 現地開催を基本とする。
- ・ (委員) ほかの町の事例を提案した方が新しいアイデアが出てくるのではないか。アイデアを出すための手段を工夫してもらいたい。企業やPTAに情報発信を支援してもらえるとよいのではないか。
- ・ (委員) 若い人は色々な情報を持っている人も多いので、多様なアイデアが出てくることを期待したい。
- ・ (委員) 20代もぜひ来てもらいたい
- ・ (委員) QRコードとかで簡単に申込できる方法を工夫してほしい。愛情ネットでのよびかけはどうか。
  - (事務局) 意見をちらしに反映する。役場職員だと、40代も含めれば50人ほど対象者がいる。愛情ネットは、防災情報以外はオフにしている人も多いかと思う。
- ・ (委員) ワークショップは2時間で十分なのか。
  - (事務局) 一般論で2時間が目安。平日夜だとこのくらいの時間が妥当である。
- ・ (委員) 校區別編は2回あるが、いずれかの参加でもよいか。
  - (事務局) 続きものの議論なので、連日にしている。できれば両日出ていただきたい。全体で合意して前に進むという建付けとしている。また、1班あたり5~6人と想定しているが、多い場合は班を分けるなどの対応をするので、積極的に参加の声かけをいただきたい。

## 6. 閉会

(以上)